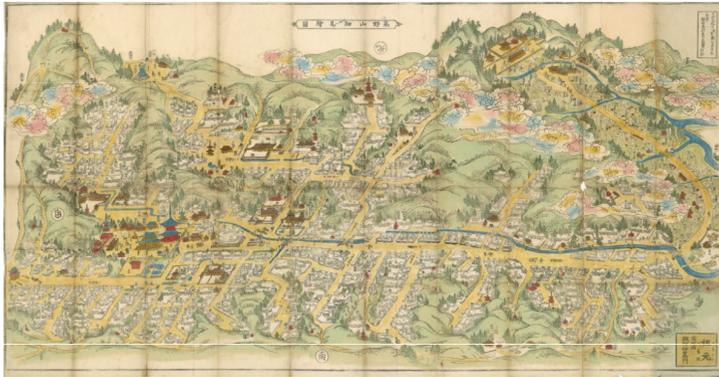


和歌山大学等地方国立大学や自治体の デジタルアーカイブ化の取り組みについて

TRC-ADEAC株式会社 田山健二



和歌山大学附属図書館蔵「高野山細見絵図」

今なぜ大学でデジタル アーカイブなのか？

2

**ADEAC®(アデアック)は、
デジタルアーカイブを公開するための
クラウド型プラットフォームシステムです。**

**共同利用により、さまざまな機能を、
低コストでお使いいただけます。**

3

参考事例

4

① 和歌山大学附属図書館 「地域史料デジタルアーカイブ」

「和歌山県内の歴史資料等のデジタル化および地域連携推進事業」

1. 所蔵する紀州藩文庫のうち、古地図および郷土誌料のデジタル化
2. 県内自治体などと連携し、MLAKを中心とした諸機関で所蔵されている歴史資料の調査・データ共有および公開
3. 県内自治体と連携し、当該地域でのセミナー開催

5

② 島根大学附属図書館 「河本家古典籍」

「稽古有文館(国指定文化財河本家住宅)に伝わる史資料のデジタル化とデジタルアーカイブ連携公開事業」

1. 河本家「稽古有文館」蔵書をデジタル化して公開することにより、近世の地方で形成された特色ある古典籍コレクションの研究や教育面での活用を支援する
2. 島根大学デジタルアーカイブとADEACを双方向に連携する実証実験を行うことによって、他機関のデジタルアーカイブ間の連携によるコンテンツの相互活用を検証する

6

地域貢献大学と地方創生

7

平成29年度 地方創生関連予算等について

- | | | | | | | | | | |
|--|----------------|----------------------------|---------|----------------------|-------|-----------------------------|---------|---|---------|
| ① 地方創生推進交付金の確保 | 1,000億円 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方版総合戦略に基づいて、地方公共団体が自主的・主体的に行う先導的な取組に対し、地方創生推進交付金により支援することにより、地方創生の更なる深化を推進。
(対象事業例) ローカル・イノベーション、ローカル・ブランディング(日本版DMO等)、生涯活躍のまち、働き方改革、小さな拠点等 ○ 交付対象事業については、KPIの設定とそれに基づくPDCAサイクルの整備を前提に、地域再生法に基づく法律補助の地方創生推進交付金により、複数年度にわたり、継続的かつ安定的に支援。 ○ 平成29年度からは、地方の要望を踏まえ、交付上限額やハード事業割合などの点について運用の弾力化を行うとともに、地方の「平均所得の向上」等の観点から地方創生にとって効果の高い分野を重点的に支援。 | | | | | | | | | |
| ② 総合戦略等を踏まえた個別施策(①の交付金を除く) | 6,536億円 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における政策パッケージごとの内訳は以下の通り。 <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">i) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする</td> <td style="text-align: right;">2,062億円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ii) 地方への新しいひとの流れをつくる</td> <td style="text-align: right;">651億円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">iii) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる</td> <td style="text-align: right;">1,417億円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">iv) 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する</td> <td style="text-align: right;">2,407億円</td> </tr> </table> | | i) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする | 2,062億円 | ii) 地方への新しいひとの流れをつくる | 651億円 | iii) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる | 1,417億円 | iv) 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する | 2,407億円 |
| i) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする | 2,062億円 | | | | | | | | |
| ii) 地方への新しいひとの流れをつくる | 651億円 | | | | | | | | |
| iii) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる | 1,417億円 | | | | | | | | |
| iv) 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する | 2,407億円 | | | | | | | | |
| ③ まち・ひと・しごと創生事業費(地方財政計画) | 1兆円 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方公共団体が、地域の実情に応じ、自主的・主体的に地方創生に取り組むことができるよう、平成29年度地方財政計画の歳出に、「まち・ひと・しごと創生事業費」(1兆円)を計上。 ○ 少なくとも総合戦略の期間である5年間は継続し、1兆円程度の額を維持。 | | | | | | | | | |
| ④ 社会保障の充実 | 1兆224億円 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども・子育て支援制度の円滑な施行を進めるとともに、医療・介護サービスの提供体制改革等を促進。 | | | | | | | | | |

文化庁の関連予算

「文化財総合活用・観光振興戦略プラン」
 (28年度予算額 9.626百万円) 29年度予定額 10.421百万円

- 日本遺産魅力発信推進事業
- 文化遺産総合活用推進事業

私立大学研究ブランディング事業

【採用事例】

「高野山アーカイブ」の構築と世界遺産高野山の生成・発展・継承に関する密教学的研究

私立大学研究ブランディング事業

平成28年度予算額 72.5億円【新規】

〔施設・装置：5.5億円 設備：1.7億円 経常費：50億円〕
※「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の継続採択分の支援を含む

学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援

タイプA【社会展開型】(Research Center for Society)

タイプB【世界展開型】(Research Center for the World)

支援対象

地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する研究

- ・特定の地域あるいは分野における、地域の資源活用、産業の振興・観光資源の発掘・文化の発展への寄与、起業や雇用の創出等を目的とするもの
- ・申請は地方大学^{※1}又は中小規模大学^{※2}に限定

※1 三大都市圏（政令指定都市圏等）以外に限定 ※2 専任定員1,000人未満

先端的・学際的な研究拠点の整備により、全国的あるいは国際的な経済・社会の発展、科学技術の進展に寄与する研究

- ・学際・融合領域・領域間連携研究により新たな研究領域の開拓、生産技術の確立や技術的課題への大きな寄与、国際連携等のグローバルな視点での横断的取組、社会的ニーズに対応した知の活用等を目的とするもの

選定方法イメージ

【研究体制】学長のリーダーシップの下で全学的優先課題としての設定や研究体制の整備の状況

- 事業計画への記載、学内予算及び人的資源の重点的・効率的配分、教育への展開計画の策定など、全学的優先課題として位置付けられているか。
- 研究活動、研究業績に係る点検・評価を実施し、その結果を研究組織あるいは全学的な管理運営に反映する体制が整備されているか。
- 研究活動の進捗管理及び支援に係るマネジメント体制、学内外の連携体制が整備されているか。等

研究体制と研究内容を総合的に審査

【研究内容】

- 期待される研究成果が明確であり、全学的優先課題として適切か。
- 研究成果が波及する対象との連携体制が整備されているか。
- 打ち出すとするブランド力に独自性・新規性があり、研究内容との関連が明確にされているか。等

【研究内容】

- 科学的、技術的意義や社会的、経済的意義がある研究内容か。
- 研究成果が貢献・寄与する程度が明確に想定され、実現可能性があるか。
- グローバルな視点・独自性・新規性があり、研究内容との関連が明確にされているか。等

30~40件程度選定

補助条件イメージ

- ・各年度の申請は1大学1件限り
- ・文部科学省ホームページやシンポジウム等において各大学が打ち出す研究ブランド力を集約して発信
- ・各大学における研究の進捗状況及び成果の発信・普及を義務付け
- ・補助対象事業費の下限額：施設・装置1,000万円、設備500万円 経常費は最大5年間にわたり措置



③ 函館市中央図書館

「函館市地域史料アーカイブ」

はこだて未来大学 + NP0スマートシティはこだて
 合併市町村史のフルテキスト横断検索

④ 浜松市立中央図書館
「浜松市文化遺産デジタルアーカイブ」

図書館発のMLA連携、大河ドラマ予算

13

⑤ NPO長野県図書館等協働機構
「信州地域史料アーカイブ」

史料は原則すべて、原本+現代訳+翻刻+解説
動画、写真、まち歩きガイド、電子紙芝居などを統合
市民協働 & MLA連携、連続講座の開催

14

⑥ 下松市立図書館
「郷土資料・文化遺産デジタルアーカイブ」

市発行図書の有効活用、各種インテックス作成

15

⑦ 柏崎市
「高精細デジタルアーカイブ」

WEBミュージアム(3Dを含む立体物画像)

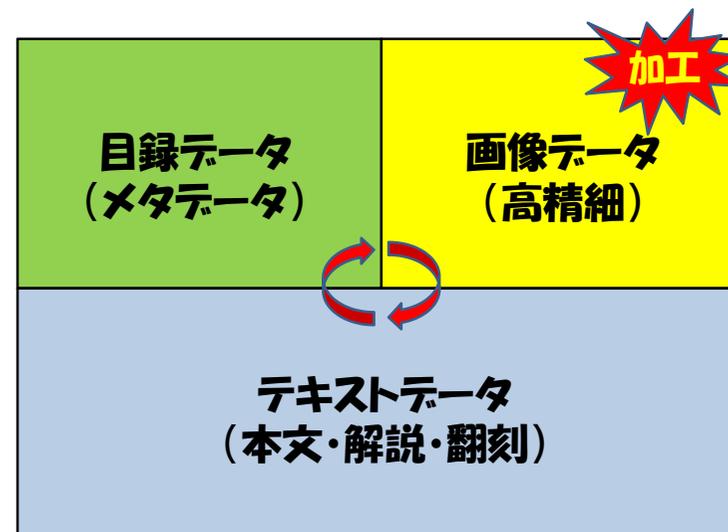
16

⑧ 立命館大学図書館 「加藤周一文庫関連資料」

ノート内の一著作単位の詳細目録
キーワードの事前表示

17

デジタルアーカイブの進化



18

デジタルアーカイブの意義

- ① 埋もれた資料のデジタル化
↓
- ② インターネットによる公開
↓
- ③ 利活用(図書館で、大学で、家庭で、地域で)
↓
- ④ 新しい知識の創造

19

<https://trc-adeac.trc.co.jp/>



20